

初学者のための「きのこ検索カード」

—試作版のアンケート結果と改良点の検討—

○辻山駒子（関西菌類談話会）、辻山彰一（京都府立大学生命環境科学研究科）、
井ノ瀬利明（菌類懇話会）、酒井健雄（大手前栄養学院）、小堀栄二（関西菌類談話会）

キーワード：自然観察，きのこ，検索カード，生物，環境教育，分解者，微生物

1. きのこ検索カードについて

自然環境教育が普及するにともなって、生態系の理解を目標とした自然観察を行う機会が増えている。自然観察では、生態系の生産者である植物、消費者である動物・昆虫について学習する機会が多い一方で、分解者としての菌類を学習する機会が少ない。この理由の一つとして、菌類の実体が微生物であり、肉眼では認識しにくいことに起因する、馴染みの薄さが挙げられる。そこで、大型菌類の花とも言えるきのこを教材にすると、実物が見えるため興味が持ちやすく、森林環境や分解者についての学習の発展が期待できる。

しかし、きのこは鑑定が難しく、毒きのこの取扱いに注意が必要であることが、教材としての使用や学習への敷居を高くしている。よって知識の普及活動が、必要とされる。

私たちは、きのこの鑑定を容易に行えるようにするために、きのこ検索カードの製作を進めている（辻山ら、2010）。今回は、被験者に試作版を使ってもらい、アンケート調査の結果をもとに、改良点の検討を行った。

2. 試作版の内容とアンケートについて

主要な図鑑に掲載されているハラタケ目100種について、外観で確認できる特徴を選抜しデータベースを作成した。これを元に検索カードを作成した。カードの検索様式には、ホールソートカードシステムを採用し、大きさは、携帯性を考慮してはがきサイズとした。

アンケート調査では主に大学生を対象とした。実際に野外で採集したきのこを見ながら検索カードを使ってもらい、使いやすさや改良点についてアンケートを行った。指導者は、カードの検索精度を評価するために、被験者が使用している間、検索順序および該当の有無を記録した。

3. アンケート結果と考察

アンケート結果から、検索カードが初心者にとって鑑定に役立つという意見が得られた。

検索過程で被験者が判断を迷った点は、①きのこ特有の形態的特徴（管孔・つば・つぼ）、②変色性の判断、③色の判断、が主であった。①と②については、指導者の解説により容易に判断できるようになったが、③については実際にきのこの色を見たとき、被験者が判断した色名と、カードに記載された該当する色名との間に、ずれがある例がいくつか見られた。

試作版検索カードの検索精度を評価したところ、被験者が検索した野生きのこ13種類について、1回目で該当種へ行きついた例はなかった。そこで、指導者により形態的特徴などの解説を行ったところ、2回目のやり直しで該当種あるいはそれに近いグループに行きついた例が、7種類であった。アンケートと実施結果を元に今後さらに改良が必要と思われる。

[文献] 辻山ら（2010）自然観察のためのきのこ検索カードの製作. 日本理科教育学会近畿支部大会(京都大会)発表要旨集, 61, 2010-11-27.